

教育計画

平成21年度 三崎中学校学校教育目標及び経営方針

1、学校教育目標

『前進・根気・思いやり』

◇前	進	自ら学び、考え、行動し、自分の進路を切り拓こう。
◇根	気	進んで仕事をし、ねばり強く取り組もう。
◇思いやり		自然を愛し、人を思いやり、共に高め合おう。

(1) 生徒（生活）指導の充実

～自ら望ましい生活習慣を築くことのできる生徒の育成のために

後追いでない積極的生徒指導の推進を図る。生徒一人ひとりを見つめた心に触れる指導を基盤として、一方で当たり前のことが当たり前に行えるような「しつけ」を通して学校や社会生活のルールを守る態度を養い、よりよい生活習慣・態度を育成する。自己肯定感や考える力を育て、将来に「夢」を持ち、「理想」をかかげて生活を自らの力で切り拓くことのできる実践力のある生徒の育成を図る。

(2) 学習指導の充実

～学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成のための～

生徒一人ひとりの学習能力、理解度、知識の定着度・つまづき等を把握し、落ち着いて生き生きと学習する雰囲気づくりに努める。そのためには、教員の指導法改善研究により、基礎基本の確実な定着と生徒の学習意欲を高める取り組みが必要である。

(3) 健全な心身の育成

～心身ともに健全で、思いやりのある生徒の育成のために～

ねばり強い意志と体力・豊かな情操と思いやりの心を育て、集団の一員として自覚した行動のとれる生徒の育成を図りたい。

(4) 特別支援教育の充実

～一人ひとりの教育ニーズに応える指導を目指して～

特別支援学級の生徒及び普通級の生徒についても生活・学習上の困り感を把握し、一人ひとりのニーズに合わせた支援教育の充実を図る。

(5) 学校と家庭・地域との連携の強化

～保護者・地域に開かれた学校を目指す～

学校と家庭・地域社会が緊密に連携し合い、信頼と協調のもとで理解と援助を仰ぎ、学校教育の充実と活性化を図りたい。

(6) 小学校との連携を積極的にすすめ、指導の相互交流を図る

～教育の連続性を追求し、生徒の発達段階に合わせた指導を求める～

義務教育9年間をワンスパンと捉え、教育の連続性を追求し、発達段階に合わせた指導により、中1ギャップの軽減、生徒の健全育成を図る。

2、本年度重点目標

(1) 新学習指導要領の移行期間1年目の教育課程を適切に編成し実施する

- ①新学習指導要領改定の趣旨を前向きに受け止め、平成24年度完全実施に向けて、移行1年目の新教育課程を適切に編成し実施する。
- ②選択教科・総合的な学習の時間の授業時数減に適切に対応し、数学・理科の授業時数増と内容の一部前倒し（含、音楽）を適切に実施する。
- ③選択教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の改定の趣旨を生かし、先行実施に適切に対応する。
- ④各教科等においては、3年間の移行期間の指導計画を段階的・計画的に編成する。
- ⑤指導計画は、前年度の実績及び新学習指導要領移行期間の授業時数を基に、その基準を上回るように計画する。また、授業時間を学期ごとに集計し、授業時間確保のための方策を講じる。

(2) 基本的な生活習慣の育成

- ①日頃の教育相談活動を充実し、生徒理解に努め、信頼関係を築く。
- ②学年を超えて、共通理解を図りながら基本的な生活習慣の定着化と向上に努める
・挨拶、言葉遣い
・学習規律、時間を守る、適正な服装、忘れ物防止
- ③様々な機会を捉えて、社会性の基本としての「公私の別を踏まえた対応」「TPOに合わせた言葉・態度・行動」を指導して行く。
- ④教育活動全体を通して生徒の自己肯定感を育て、さらに高い価値観（理想）を追い求める生徒を育てる。

(3) 授業の改善・研究をとおして基礎学力の定着化と学習意欲の向上を図る

- ①全教員による授業研究をとおして授業力の向上に努める。校内研究を外部に開くことによって研究内容の検証・深化を図る。
- ②少人数授業やティームティーチングによるきめ細かい指導の充実を図る。
- ③朝や帰りの学級活動の時間を活用し、基礎的な内容のドリル学習を行う。
- ④全教員による夏季休業中を利用したサマースタディーの実施により、基礎基本の定着や興味関心・学習意欲を高める取り組みを行う。
- ⑤特別支援学級と連携し、普通学級在籍生徒の学習支援を行う。

(4) 福祉・ボランティア活動を推進する

- ①地域清掃、総合的な学習の時間における福祉体験・地域清掃、各行事の準備・片づけ、夏季休業中の校内整備作業等の各ボランティア活動により、集団の一員地域の一員としての自覚を高め、また生徒の有用感・自己肯定感を高め、社会性や豊かな心を育てる。
- ②福祉・ボランティア活動を習慣化すると共に、「豊かな心」につながるその本来の意味についての理解を深め、より自覚的な活動に高めていく。

(5) 保護者・地域に開かれた学校、地域と共存する学校づくりを目指す

- ①「学校施設の開放」「学校教育活動の公開」「学校と保護者・地域との交流」「情報の公開」を進める。
- ②各教科・道徳・選択授業・総合的な学習の時間・特別活動等に地域教育力の活用を積極的に進める。

3、経営方針

教育は教員と生徒そして保護者との信頼によって成立するものである。よい生徒集団は、よい教職員集団によって育成される。教職員が変われば生徒が変わる。新しい時代に生きる望ましい生徒を育成するには、教職員集団が常に研鑽に励まなければならない。生徒・保護者・地域の期待に応えるべく全職員が共通理解を深め、同一の姿勢で指導に当たり「安心して楽しく過ごせる学校づくり」をめざすとともに、教育実践を通して「生徒の個の伸長」を図ることに努める。

- (1) 教職員一人ひとりが教育者・教育関係者としての職責を自覚し、生徒に愛情を持って接することにより、生徒・保護者の信頼に応えるよう努める。
- (2) 「新たな学校運営組織」「教員の新たな職」の制度改正に伴って、本校の実態にあった組織・運営方法を検討し、効率的な学校運営を目指す。
- (3) 提示・指示されて取り組むべき内容と各自・各分掌で創意工夫すべき内容とを区別し、効率的な運営と個人及び組織の活性化の両立をめざす。
- (4) 新学習指導要領の内容と改定の趣旨の理解及び移行期間についての理解を徹底し、新しい教育課程を適切に編成し、その実施に前向き積極的に取り組む。
- (5) 本年度の各重点指導目標の達成に向けて、企画調整会議を中心として各分掌間の連携を図り、学校全体として組織的な取り組みを展開する。
- (6) 学校研究・教職員研修に積極的に取り組み、個々の教職員の研修成果も全体に還元する。教育実践をとおして相互援助ができる教員集団をめざす。
- (7) 個人情報に対する理解（個人の尊重）と個人情報管理の意識を高める。個人情報管理規定の再確認と見直しを行い、個人情報漏洩の事故防止を図る。
- (8) 経験年数の少ない教職員等へ指導技術や学校運営のノウハウ等の伝達について、また広く人材育成について、各教職員それぞれの立場から、また組織として連携を図りながら積極的に取り組む。
- (9) 教育公務員としての責務を自覚し、その職責を積極的に果たすと共に、適正な服務等により、保護者・地域住民からの信頼を高める。